

ゼミナール紹介

担当者名	井上裕之
e-mail アドレス	inoueh@bunkyo.ac.jp e-mail
研究室	3401
在室曜日・時限	木曜2, 4限
個別相談など (日時・方法)	●当ゼミを志望する学生は、必ず個別面談を受けてください。面談を受けない学生は選抜対象としません。事前にメールで希望日についてご相談下さい。 ●ゼミ見学希望者は、水曜2限の3年ゼミに来てください。日取りは特に決めていませんので、事前にご連絡ください。
選抜方法	定員を超えた場合は、志望書と面談等で総合的に評価・選抜します。
ゼミナールに関連する科目	私の担当する授業は原則として履修していただきます。
2026 年度担当科目	文章演習基礎 文章演習 A (説明文・時事教養) ジャーナリズム論 プレゼミナール B 文献購読 A キャリア研究 ゼミナール 卒業研究
授業概要	●当ゼミナールは「ことばと映像を用いた情報伝達」を学ぶ、ジャーナリズムとライティング（文章執筆）のゼミです。地域に根差したさまざまなできごとを文章と映像で伝えることを通して、「調べる力」と「書く力」を養いましょう。 【3年生のゼミは】 ●ニュースや記事を読み込み、理解できるようにします。 ●書評、食レポ、インタビュー記事など、自分の好きなジャンルの記事を執筆します。また、茅ヶ崎市議会の取材と記事執筆を通して、地域社会について学びます。 ●映像（静止画・動画）形式や、音声形式のものも対象にしています。 ●書いた記事はゼミで発表してネットに公開し、就活時のポートフォリオにします。 【4年生のゼミは】 ●「卒業論文」か「卒業制作」かを選べるゼミです。その完成に向けて毎回ゼミ発表をします。卒業論文は、メディアに関するテーマの学生が多く、卒業制作は、記事制作や動画制作などさまざまです。 【その他】 ●3・4年生合同で夏に合宿をしています。みな、自分のつくったものを持ち寄って発表し、意見交換をします。 【向いている学生】 ・ニュースやネットの記事・動画コンテンツに興味がある人 ・文章（ノンフィクション）やことばに関心がある人

ゼミナール紹介

担当者名	奥村真司
e-mail アドレス	okumuras@bunkyo.ac.jp
研究室	3307
在室曜日・時限	火曜日（2・3 限）、木曜日（2・3 限）は対応可能な時間帯ですが、校務等により不在の場合もあります。 面談や相談をご希望の方は、事前に必ずメールでご連絡ください。
個別相談など （日時・方法）	メールにてお問合せください。
選抜方法	本ゼミを志望される方は、必ず教員との個別面談（対面）を受けてください。 ※面談を受けていない場合は、選抜対象外となりますのでご注意ください。 面談の詳細については、事前にメールにてお問い合わせください。 【選抜について】 希望者が定員を超えた場合は、以下の内容を総合的に考慮して選抜を行います： 1）志望理由書の内容、2）個別面談の内容、3）成績 そのため、本ゼミを志望する学生は、必ず志望理由書を提出してください。 【志望理由書の作成について】 以下の観点を参考にしながら、ご自身の言葉で具体的に書いてください。 ・なぜこのゼミに興味を持ったのか（関心を持ったきっかけや背景） ・このゼミでどのようなことを学びたいか（具体的なテーマや問いなど） ・これまでの学びや経験とのつながり ・将来の目標や進路との関係 ・ゼミ活動への貢献について（自分の強みや活かせる経験など） 分量の目安：800 字以上 1000 字以内
ゼミナールに関連する科目	英語 A、異文化コミュニケーション、グローバルメディア論
2026 年度担当科目	英語 A、アカデミック基礎演習、異文化コミュニケーション、グローバルメディア論、ゼミナール I, II、卒業研究 I, II
授業概要	【ゼミナールのテーマ】 「異文化コミュニケーション × メディア表現」 海外の学生との交流を通して異文化を理解し、これまでメディア表現学科で学んできた知識やスキルを生かして、日本や地域の魅力を海外へ発信する実践型のゼミです。 【前期：フランスの学生との交流】 茅ヶ崎市にホームステイするフランス人大学生に向けて、湘南・茅ヶ崎の魅力を伝える紹介ビデオをチームで制作します。企画・取材・撮影・編集を行い、交流当日にフランスの学生へ紹介します。 フランスの学生からも若者文化や日常生活について紹介してもらい、交流を通して日本とフランスの文化の違いや共通点について考えます。 【後期：韓国の学生との交流】 渋谷・原宿などの若者に人気のスポット、ファッション、食、ライフスタイルなどをテーマに、日本の若者文化を紹介するビデオを制作します。

制作したビデオを韓国の大学生とのオンライン交流で紹介し、お互いの若者文化について意見交換します。その後、**実際に韓国を訪問**し、現地の大学生との交流やソウルでのフィールドワークを行います。

【Team-Based Learning】

今年度から、チームベースドラーニング（Team-Based Learning）を学習の中心に取り入れています。少人数のチームで調査、企画、ビデオ制作、発表、フィールドワークに取り組み、それぞれの得意分野を生かしながら一つの成果をつくり上げます。

【このゼミで身につく力】

海外の学生と交流する。

自分たちの文化を見つめ直す。

メディアを使って世界へ発信する。

フランス・韓国の学生との交流や海外フィールドワークを通して、**異文化を理解する力、メディアで表現・発信する力、チームで協働する力**を実践的に身につけます。

ゼミナール紹介

担当者名	勝久晴夫
e-mail アドレス	katsuhisa@bunkyo.ac.jp
研究室	3304
在室曜日・時限	火、水、木（前日までにメールにて予約）
個別相談など （日時・方法）	メールにて連絡をしてください。必要に応じて対面あるいは Zoom により、個別相談をします。
選抜方法	ゼミ内容と志願理由の適合性によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、著作権ビジネス論
2026 年度担当科目	情報社会と法、現代社会と著作権、著作権ビジネス論、メディアコンテンツ論、日本国憲法、法律学、知的財産法、ゼミナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	・本ゼミナールでは、メディア表現について、著作権法を中心とした法律面から研究します。作品の制作からビジネス展開までの各場面で生じる法律問題に適切に対処できる知識と能力を持ち、戦略的に知的財産法を活用できる人材の育成に取り組みます。 近年では、作品制作の段階で生成 AI 技術を活用することが急速に広がっているが、このような新しい技術を活用する際に生じる法律上の問題についても研究をします。 ・著作権法等の法律の知識が不十分であることを前提に、ゼミナール I では、音楽や映画、漫画やゲームなど身近な作品を題材にして基礎的なところをレクチャーします。この期間にゼミナール II でゼミ報告をするテーマを選定してもらいます。 ・ゼミナール II は、各自が選定した研究テーマについて、ゼミ報告をしてもらいます。ゼミ報告は、研究テーマに関連する資料を調査した上で、「問題の所在」「法律・判例・学説等の現状」「検討」「私見」「今後の展望」という構成でまとめてもらいます。 ・卒業研究 I 及び II では、「卒業論文」を執筆し、提出してもらいます。この卒業論文の題材は、ゼミナール II でゼミ報告をしたものと同一でもいいですし、それ以外のものを新たに研究テーマとしてもいいです。 ・「論文」の形式にするために必要な手順などは卒業研究 I で解説します。 ・卒業研究 II では、卒業論文執筆のためのサポートを行います。

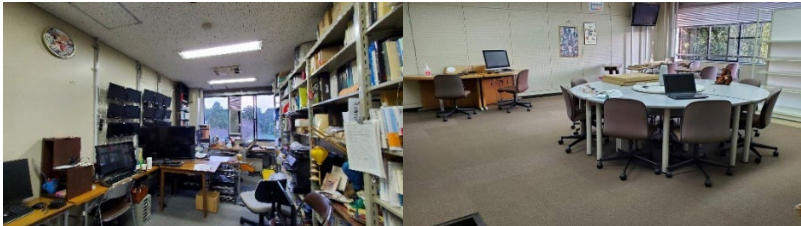
ゼミナール紹介

担当者名	白土由佳
e-mail アドレス	yuka@bunkyo.ac.jp
研究室	3402
在室曜日・時限	火、水、金（来訪の際は事前に連絡をください）
個別相談など （日時・方法）	ゼミナールはいつでも見学可能です。水曜 2 限に 7201 教室にいらしてください。まれにオンラインの際があるため、見学の際は事前に連絡をください。 個別相談も随時受け付けています。日程調整のためメールで連絡をください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談にて選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2026 年度担当科目	卒業研究、ゼミナール I・II、ソーシャルリスニング、ソーシャルメディア論、デジタルメディア論、アカデミック基礎演習
授業概要	■ 概要 本ゼミナールでは、ソーシャルリスニングと TEA（複線径路等至性アプローチ）という 2 つのアプローチを学び、私たちの身の回りの様々な事象を社会学的に捉え、分析していくことを目指します。 ソーシャルリスニングとは、ソーシャルメディア上などで自然に発生した人々の会話や行動などを分析し、人々の実生活に基づいた意見を活用する手法です。TEA（複線径路等至性アプローチ）とは、インタビュー調査等を時間経過と多様性・複線性という観点から分析する手法です。 どちらも地道な繰り返しが必要になるアプローチです。トライアンドエラーを繰り返しながら、探索的なデータ分析を楽しんでいきましょう。 ■ 到達目標 ・ R や GoogleColaboratory、KHCoder など、データ分析ツールが使用できる。 ・ ソーシャルリスニングの一連の流れを理解し、実践することができる。 ・ インタビュー調査の実施、分析をすることができる。 ■ スケジュールと研究テーマ例 3 年生：春学期は、ソーシャルリスニングと TEA の流れを学びます。秋学期は、毎年 1 月頃に開催される学会の学生教育研究部会（他大学と合同の研究発表会）を目指してグループ研究に取り組みます。4 年生の卒業研究の中間・期末発表にも参加します。 ・ コロナ禍の漫画に対する関わりの変化―鬼滅の刃から読み取る― ・ SNS とファンコミュニティにみる現代アイドルの実態分析 ・ 実況者とそのファンの関わり方 4 年生：卒業研究と、3 年生へのアドバイザーとしてグループ研究をサポートします。 ・ 洒落怖と怪談話における構成の違い ・ ライブ内容と環境に依る受け手の変化と違い ・ 若者とインターネットスラングの使用状況について

ゼミナール紹介

担当者名	ソー・ヘー
e-mail アドレス	seo@bunkyo.ac.jp
研究室	3303
在室曜日・時限	月・水・金曜日（事前にメールで予約してください）
個別相談など （日時・方法）	個別面談は対面のみで実施します。面談では、先輩方の課題やポートフォリオをご覧ください。応募を希望する方は、事前にメールでご連絡のうえ、必ず個別面談を受けてください。
選抜方法	希望者が定員を上回る場合は、面談結果、ゼミ志望理由書、成績を総合的に判断して選考します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2026 年度担当科目	情報表現デザイン、デザイン論、広告表現 A、広告表現Ⅱ、メディア基礎演習 A、ゼミナール
授業概要	「観察と実践からひらくグラフィックデザイン」 本ゼミナールでは、グラフィックデザイン、視覚伝達デザイン、タイポグラフィを中心に、情報や考えを視覚化し、伝える方法を探究します。ポスター、冊子、広告、Web など、さまざまなメディアを活用し、新しい視覚表現の可能性を考えます。デザインに取り組む前に、時間をかけて調査し、丁寧に観察することを重視します。資料調査、事例分析、フィールドワーク、インタビューなどを通して対象や社会を理解し、そこから発見したテーマや課題をデザインへと発展させます。制作では、コンピューターだけに依存せず、自分の手で絵を描いたり、写真を撮ったりするなど、手と目、身体を使うアナログな作業も大切にします。同時に、AI をはじめとする新しい技術についても、その特性や課題を理解しながらデザインのプロセスに活用します。 3 年次には、1 年間を通してさまざまなグラフィックデザインの課題に取り組みます。個人制作とグループワークを通して、調査、観察、テーマの発見、コンセプトの設定、アイデアの展開、制作、発表までの一連のプロセスを経験します。これらの経験を通して、自分が何を好きなのか、グラフィックデザインのどの分野に関心があるのか、何を得意としているのか、そして将来どのようなデザイナーになりたいのかを見つけていきます。就職活動に向けた準備や練習も行います。ポートフォリオの構成、作品説明、文章作成、自己紹介、面接、プレゼンテーションなどを練習し、自ら考え、自分の作品や考えを自分の言葉で表現する力を身につけます。 4 年次には、3 年次に見つけた関心分野や問題意識をもとに、個人で卒業研究に取り組みます。研究内容に応じて、ポスター、冊子、広告、Web、展示などの成果物を制作し、作品とともに研究や制作の過程をまとめた制作ノート、または論文を作成します。 本ゼミナールでは、表現技術だけでなく、観察し、問いを立てる力、時間をかけて考える姿勢、自ら行動して試す姿勢、協働する力、自分の考えを他者に伝える力を身につけることを目指します。授業時間外にも積極的に調査や制作に取り組み、デザインと真摯に向き合う学生を歓迎します。

ゼミナール紹介

担当者名	日吉 昭彦
e-mail アドレス	hiyoshi@bunkyo.ac.jp
研究室	5405（日吉研究室）は、左のようなイメージです。テレビが16台あり、地上波とBSデジタル放送を全チャンネル同時に見れます。学生さん用デスクトップPCやノートPCがありますので、自由にみなさんも研究作業や打ち合わせ等をしていただけます。学生さん向けに関心が持てそうな専門図書も揃えています。また、研究室ではありませんが、フォーカス・グループ・インタビュー専用のスタジオを設計しており、ゼミを中心に活用しています。写真右側です。ゼミの学生は、研究室に自由に入出りできます。ゼミウェブサイトは、以下のQRコードからどうぞ。過去のゼミ作品が見れます。5405研究室前には、過去の卒論やゼミ作品が置いてあります。来訪はアポ不要です。お気軽にどうぞ。  
在室曜日・時限	火曜（5限は授業）・水曜（1&2限はゼミ、午後は会議）・木曜（2限&3限は授業）に大学にいます。授業後や放課後はたいてい研究室にいますので、アポなしで気軽に研究室（5405）を訪問ください。いつでも個別相談にのります。ただし、メールで予約があれば確実です。水曜午後は会議が不定なのでメール予約が確実。
個別相談など （日時・場所）	個別の相談は上のとおりです。募集期間中の「水曜2限」は、基本的に教室でゼミを実施しています。ゼミ教室を気軽に訪問してください。いつでもゼミ見学が可能です。予約不要です。ゼミは5301教室（上のグルイン・スタジオ）で実施しています。先輩の話も聞けるかも。
選抜方法	定員を超えた場合は、プレゼンテーション等を行う予定です。詳しくは別途連絡します。 （なお、メディア表現学科以外の方は、エントリー前に、必ず事前相談してください。また、エントリーした場合は、必ずプレゼンテーション等が行われます）
ゼミナールに 関連する科目	社会調査士関連科目など。ただし必須なわけではありません。あと社会学概論も(^)v 3年次にメディア効果論を取得しておく役立つでしょう。
2026年度担当科目	社会学概論 メディア社会論 社会調査論 メディア調査研究法C メディア効果論 プレゼミナールB ゼミナール 卒業研究 大学院
授業概要	本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと、さまざまな<u>メディア研究を行うゼミ</u>です。 ゼミでは研究方法として「質的調査研究法」という方法を採用しています。質的方法には、聞き取り調査やインタビュー、フィールドワーク、メディア分析などがあります。また、映像のミクロ分析やメディアの効果測定、マーケティングでのフォーカス・グループ・インタビューなども含まれます。 <u>実際の進め方は、春秋セメを通じてみなさんから調査企画を募集し、調査プロジェクト（PBL）</u>を一つ立ち上げ、「質的調査研究法」をさまざまに用いたメディア研究を行います。過去にはメディアによる地域活性化について、フィールドワークを通じて行った研究などが多く行われています。 授業は基本的にPBLなので、企画立案や事前の下調べ、プレゼンテーション、調査プロジェクトの組織、フィールドでの調査実施、調査結果の整理や分析など、全てをグループ（ゼミ全員）で取り組みます。また、研究成果は、グラフィカルな冊子形式で出版し、その編集作業もゼミ活動の一つです。<u>インタビュー手法については、専門的にかつ体験的に学ぶ</u>ことができ、実際に広告業界やマーケティング、企業の商品・サービス開発などで使われている技法を身に付けられるでしょう。

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hours
個別説明会 (日時・場所)	対面の説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは原則 zoom で個別面談をおこないます。 下記に登録してお待ちください。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	教室などの詳細は未定のため、 こちら から氏名を登録してください。
選抜方法	選抜方法は面接や GPA などを経合的に評価します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2026 年度担当科目	メディア基礎演習 A、情報表現デザイン、ミュージックビデオ制作 A、動画配信演習、Web デザイン、UI/UX デザイン、生成 AI 演習
授業概要	本ゼミナールでは、生成 AI・映像・Web・UI/UX など新しい技術を積極的に取り入れ、従来の枠にとらわれない視覚伝達の可能性を探究します。映像、紙、Web といった多様なメディアを横断的に学び、プラットフォームに応じた表現力と情報発信力を身につけることを目指します。 制作は個人での取り組みを基本とし、自分のテーマを深く掘り下げる力を養います。あわせてグループワークにも重点を置き、技術や知識の習得と同時に、コミュニケーション力や協働力を実践的に鍛えます。チームでプロジェクトを進める経験を通じて、実社会で求められる企画から完成までの進め方を学びます。 到達目標は、柔軟な発想力、多様なメディアを使いこなす表現力、そしてプロジェクトを成功に導くチームワークを備え、卒業後すぐに活躍できる知識と経験を修得することです。 なお、水曜日はゼミ・卒研関連でスタジオや PC 教室が混み合うため、ゼミ・卒研は水曜日以外の実施を検討しています。

ゼミナール紹介

担当者名	磯 智明
e-mail アドレス	isot@bunkyo.ac.jp
研究室	非常勤講師室
在室曜日・時限	●当ゼミを志望する学生は、個別面談をお勧めします。 ●ゼミ見学希望者は、水曜2限の3年ゼミに来てください。日取りは決めていませんので、事前にご連絡下さい。
個別相談など (日時・方法)	まずメールにてお問い合わせ下さい。面談は水曜日をお願いする可能性が高いですが、個別相談にも応じます。Zoom やメール文書でのやり取りも可能です。
選抜方法	定員を超えた場合は、志望書と面談等で総合的に評価・選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	「ドラマ演習Ⅰ(演技)」、「映像技術演習Ⅰ(ENG)」、「映像技術演習Ⅱ(スタジオ)」
2026 年度担当科目	「ドラマ演習Ⅰ(演技)」、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」
授業概要	■映像クリエイターを目指し、とりわけドラマに興味がある学生を対象としたゼミです。最新の制作現場での知見をもとに、映像業界で通用する表現方法を身につけます。 これまで映像撮影や編集を学んだ方も多いと思います。しかし、技術だけでは人の心を動かす作品はつくれません。登場人物、ストーリー、テーマ、映像設計などを組み合わせ、人の心を動かし、感動を伝える「映像文法」、すなわちドラマ手法を学ぶ必要があります。ドラマの手法は映画・テレビだけでなく、アニメ、広告、コミック、ゲームなど、さまざまなコンテンツに応用できる、物語を通して感動を伝えるための表現方法です。 ■ゼミでは毎回、課題として指定した映画・ドラマ作品を事前に見てもらいます。「登場人物・キャラクター」「ストーリー」「テーマ」がどのように設定されているのかを議論し、映像設計や世界観にも着目して分析します。とりわけ「人の心を動かし、感動を伝えるストーリーをどうつくるのか」を具体的、実践的に学びます。映像理論や作劇法についても随時、学習していきます。 ■3年次には2本のミニ作品制作にチャレンジします。ドラマ手法を使った企画・ストーリーを考え、台本を制作し、指導を受けつつ、作品として完成させます。 ■卒業研究では、卒業制作(映像作品制作)を行います。ドラマ、ドキュメンタリー、モキュメンタリー、アニメ、プロモーションビデオ、アニメ、VR、MVなど、ストーリー性のある作品であればスタイルは問いません。3年次の経験を踏まえ、放送レベルに達する完成度、表現力の高い作品を目指します。 ■作品制作においては、テーマもスタイルも、学生自身が考えることを基本とします。それぞれの作家性を尊重し、積極的にお互い意見を交わしてください。学生の創造性を重んじ、一人ひとりのこだわりや視点を大切にしたい指導を行います。どんな人にも才能は宿していると、私は信じています。 ■私は放送局に勤務し、一般番組ディレクター、ドラマ演出(監督)を経て、現在はドラマプロデューサーをしています。国内外の映像賞を受賞し、審査員も務め、現在も自ら企画したドラマを制作中です。若手ディレクター・プロデューサーの育成にも取り組み、制作会社との共同制作も数多く経験しています。こうした制作現場での知識や経験、人とのつながりを生かした講義も行います。 ■向いている人は、とにかく映像が好きで、映像をつくってみたい人、物語を考え、空想するのが好きな人です。遅刻や無断欠席を避け、クリエイティブな時間を過ごしましょう。

ゼミナール紹介

担当者名	新任教員（出版分野）
e-mail アドレス	未定
研究室	未定
在室曜日・時限	未定
個別相談など （日時・方法）	個別相談は清水学科長、もしくは勝久教務委員に申し込んでください。
選抜方法	清水学科長か、勝久教務委員が面談をします。面談をしない学生は入ゼミできません。
ゼミナールに 関連する科目	出版論、出版文化論、出版演習、記事制作など。
2026 年度担当科目	
授業概要	清水先生の定年にともない、清水先生と同じ出版分野担当の教員が 2027 年 4 月に着任します。ゼミナールの内容は、3 年次は雑誌作り。雑誌作りはグループワークとなります。集団での作業を避けたい学生には向きません。一人だけ他のゼミナール学生と異なる課題をすることはできません。4 年次は卒業研究として卒論を執筆します。詳しい内容については、清水学科長か勝久教務委員から聞いてください。

ゼミナール紹介

担当者名	藤井徹（予定）
e-mail アドレス	toru@bunkyo.ac.jp
研究室	4 号館非常勤講師室
在室曜日・時限	連絡はメールでお願いします。
個別相談など （日時・方法）	ゼミ希望者は事前にメールで連絡の上、かならず個別面談を受けてください。 原則として対面で実施する予定です。 ゼミ見学は、現在開講しているボブゼミを見学し参考にしてください。
選抜方法	定員を上回った場合は、面談結果と成績をもとに選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	コピーライティング
2026 年度担当科目	コピーライティング
授業概要	本ゼミナールのテーマは「アイディアの力で社会を動かす」～課題発見と解決を行う実践型コミュニケーション～です。 【概要】 社会や企業が抱える様々な課題に対して、コミュニケーションの視点から解決アイディアを考え、実践的な提案に取り組みます。 ①情報収集と分析、②課題発見、③解決コンセプト開発、④メッセージとアイディアの制作、⑤企画書作成、⑥プレゼンテーション、⑦実施プランニングなど、社会で役立つクリエイティブな企画力と提案力の習得を目標とします。 【ゼミナールⅠ・Ⅱ（3年次）】 国内外のユニークなアイディア事例に学び、企業・団体が抱える課題に対して解決のためのメッセージやアイディアを「チーム」で開発。企画書を作成し、プレゼンテーションを行います。 【卒業研究Ⅰ・Ⅱ（4年次）】 実社会の今日的な課題を収集・分析し、その解決のためのプロジェクトを「個人」で立ち上げ、コミュニケーション施策を開発、提案します。 論文執筆はありませんが、社会でも通用するレベルのメッセージ開発と企画書の作成、クリエイティブアウトプットの制作が求められます。 【合宿研修等】 3年と4年のゼミ生合同で、国内外の企業訪問や現場視察を目的とした宿泊を伴う研修等を行う予定です。 2027 年度 1 年間の開講となり、2028 年度の卒業研究ⅠⅡは原則としてボブ田中が担当をします。